砂丘と砂丘湖そして雪

インターネットで「砂丘　日本一」と検索すると、「実は鳥取ではない、青森猿ヶ森だ」という記事が出てくる。鳥取砂丘が16キロ、５４５haに対して猿ヶ森は17キロ１万５０００haであるという。この猿ヶ森砂丘は青森県下北半島の東海岸にあり、内部に多数の砂丘湖があり、ヒメマリモなどの貴重な植物も生息しているという。これがあまり聞いたことがないのは、そのほとんどが自衛隊の弾道試験場になっていて中に入れないからだ。その為、観光できる砂丘としては鳥取が日本一であるとの主張もある。

ところで砂丘と言えば我が新潟砂丘は、村上から角田山まで、70キロあるという事はご存知だろうか。しかも各時代にできた10列もの砂丘列が確認されている。新潟の地名で「青山」「石山」「牡丹山」「紫竹山」などの山は砂丘の高まりを表す。古来から新潟人は信濃川、阿賀野川の水害を避け、砂丘の高台に居を構えてきた。新潟の古代遺跡もそこにある。新潟の川は恵みももたらすが、水害も頻発した。越後平野は水害によってできたと言ってもよい。

新潟砂丘が70キロなら間違いなく日本一ではないだろうか。鳥取や青森よりはるかに長い。ただ面積は図り方によって違うと思う。また新潟の場合、かなりの砂丘が開発によって破壊されている。しかしこれだけ長いと面積でも他の砂丘には負けてはいないと思う。ただ多くの人がその砂丘の上に家を建て住んでいるだけだ。

そしてその砂丘列の間に砂丘湖がある。砂丘湖の定義は、必ずしもはっきり定まったものではないが、ここでは、①砂丘を成因とする②湧水のみにより形成される湖沼、とする。この国内最大級の砂丘湖が佐潟である。御幕場大池、鳥屋野潟、ジュンサイ池なども砂丘湖であり、福島潟は五頭山の水なので除く。ただこの佐潟であるが、砂丘湖ではないという説もある。潟湖（ラグーン）であるという事である。（澤口晋一）地質学的定義は専門家に任せるとして、それらが世界的に見ても非常に珍しいものであることは、１９５１年新大伊藤、豊島論文で指摘されている。その後最近まで類似の研究が少なかった。２００８年に福原他５名の「新潟県における砂丘湖の現状」がある。

代表取締役社長
鈴木英介



海外ではブラジルのレンソイス・マラニャンセスのような観光地になっている大規模な砂丘湖もある。しかしこれは雨季にだけ現れる湖である。日本のように常に一定の水位の事例は少ないだろう。日本国内でも前出の青森猿ヶ森砂丘の砂丘湖と、新潟砂丘、潟町砂丘（大潟）の中の存在以外あまりないのではないだろうか。

そもそも「砂丘湖」という言葉さえ一般には馴染みのないのが現状である。砂の中に常に水を蓄えた湖沼は、日本の微妙な気象と地質、そして生態系の中で初めて成立するものだろう。そもそも湧水がないと砂丘湖は成立しない。その為には水脈とそこに常時流れる水が必要である。

この水がどこから来るかという事だが、淡水である以上海ではない。その反対の新潟を取り巻く山である。この山に冬季大量の雪が降る。その雪が川を流れ、地下に浸み込み、砂丘湖にまで到着しているのではないだろうか。

雪と言えば新潟人は冬はどこにでも降るものと思っている節がある。もちろん南国に降るとは思っていないだろうが、新潟と同緯度か、以北では必ず降るものと思っていないだろうか。

去年韓国のピョンチャンで冬季オリンピックが開かれた。私はそのテレビ放送を見て驚いた。雪がない。もちろんあるにはあるが、私のイメージする雪景色ではない。ところどころ地面が出ていて、真っ白ではない。冬のオリンピックをするぐらいである。雪がないわけではないだろうが、少なくともきれいではない。

新潟で雪がないと言うと「今年は暖冬で雪が少なかった」と言う。しかしピョンチャンでは、選手村の入村式が寒すぎて、選手の体調を考慮し参加しないとの話まであった。温かいわけではないらしい。

雪は水の結晶なので零度で出来る。つまり雪が大量にあるとそんなに寒くならないのだ。

世界の積雪地番付というものがある。これもネットで出てくる。これを見るとなんと上位5位くらいまではせまい日本が独占している。これはいくつかの番付で微妙に違うのだが、どの地点を測るのかでかなり変わってくるだろう。しかしどの番付でも青森が1位である。北海道、秋田、富山などが続く。なんと日本は雪大国なのだ。次はカナダ、アメリカなどだがロシアや北欧などはない。新潟の津南なども上位に入っている。

当然のことであるが、この雪は水である。急峻な日本の地形で、山に降った雨はあっという間に海に流れ落ちてしまう。しかし雪であると夏まで蓄えられる。つまり山の雪は天然の貯水池なのだ。しかも新潟の山は三角形のいわゆるアルペン的風貌ではなく、頂上の丸い、いかにも水を貯めやすい形をしている。頂上に池のある山も新潟には多い。

砂丘と砂丘湖、そして雪は私たちが次世代に伝えなければならない新潟の宝なのだと思う。